

マドリーム通信

在スペイン日本国大使館附属
マドリッド日本人学校
文責 堀内正樹
令和元年6月3日 No. 3

体験したことは身につく

「聞いたことは忘れる、見たことは覚える、やったことはわかる」とよく言われます。この出典は…(聞かないことは聞くに及ばず、聞くことは見ることに及ばない。また見ることは理解することに及ばない。しかし、理解することは、それを実践することに及ばない。したがって学問は実践の段階まで至って終わるのである)だそうです。

体験活動の大切さ、また実践できる力を養うことの大切さをよく言い表していると思います。

体験には様々なものがあります。自然体験、社会体験、奉仕体験等…。学校の毎日の生活の中にも「小さな体験活動」があります。休み時間に友だちと遊ぶこと、給食の準備をして仲よく食べることに、掃除の時間に教室や学校の中をきれいにすること。まさに毎日体験活動であり、そのなかで子どもたちは人間として必要なことを学んで成長しています。

学んだことを知識として蓄えることが目的ではありません。今求められている力は、学んだことをもとに、自分で考え、創造し、実践していく力です。実践の段階では、試行錯誤を繰り返し、失敗することも多いでしょう。しかし、失敗の数だけ成功していくのかもしれませんが。

体験したことを身につけるために三つの大切なことがあります。一つ目は、その**体験のめあて**をしっかりとつこと。ただ何となくやってみた、こんなことをやらされた、では何も身につけません。二つ目は**体の全感覚を使って**「なぜだろう、どうしてだろう」と問いかけをもって考えることが大切です。自分なりの考えをもち体験することで、より深く自分の力となります。三つ目はさまざまな体験のなかで、**人とのかかわりを大切に**することです。一人ではできないことも力を合わせるとできることがたくさんあります。力を合わせてできたことは、何よりの宝となります。

6月5日から全校で2泊3日の宿泊体験学習に出かけます。この活動を通して、一回り成長する子どもの姿を想像し、わくわくしています。



6月の予定

1	土		
2	日	第1回英語検定	
3	月	全校集会	
4	火	宿泊体験学習事前集会	
5	水	宿泊体験学習	
6	木	宿泊体験学習	
7	金	宿泊体験学習	
8	土		
9	日	第1回実力テスト	
10	月	小学部チャレンジ漢字テスト	
11	火		
12	水	ランチ	
13	木	中学部補充学習会	
14	金	中学部補充学習会	
15	土		
16	日	第1回漢字検定	
17	月	中学部補充学習会 プール開き	
18	火	宿泊学習報告会	
19	水	ランチ 中学部補充学習会	
20	木	中学部期末テスト	
21	金	中学部期末テスト	
22	土	夏季体験保護者説明会	
23	日		
24	月	夏季体験学習開始	
25	火		
26	水	学校公開週間	
27	木	学校公開週間	
28	金	学校公開週間	
29	土		
30	日	第1回英語検定二次	

生徒による『マドリ紹介プレゼン』

5月15日にマドリオープンスクールを開催しました。この日はサンイシドロの日でマドリッドの祝日に当たります。年間2回開催している平日の学校公開週間には仕事等の都合で来ることができない方々が来校してくださいました。マドリの普段の姿や、ホールに用意された掲示物・昨年度の行事の動画を見て頂くことができました。日程の最後には児童生徒代表が「マドリ紹介プレゼン」を行いました。これからはいろいろな方法で、広くにマドリの活動を発信していきたいと思っています。



海外学校説明会開催

5月18日に海外子女教育振興財団主催による「帰国生のための海外学校説明会」がマドリッド日本人学校体育館を会場として行われました。日本から帰国子女を受け入れている高等学校13校が来校し、それぞれの学校紹介のプレゼンの後、各のブースに分かれ個別相談会が開かれました。海外子女財団のブースも進学情報を提供し参加者は78名にもなりました。

親子で参加された方も多く、貴重な機会を大切にしようと、熱心に耳を傾け将来の進路について考えていました。



マド日大運動会

5月19日に『マド日大運動会』が開かれました。今年も赤団・白団に分かれての戦いです。赤団は『赤鬼パワー』、白団は『白馬』をチームのイメージとして取り組みました。

本年度は『応援合戦』を取り入れました。各団団長の力強いエールとそれに続く団員の掛け声が運動場に響きわたりました。今までの練習の成果を発揮しようとする姿、最後まであきらめずに取り組む姿にすがすがしさを感じました。来賓の皆様と保護者の皆様と共に取り組む競技もおかげさまで大変盛り上がりました。お忙しい中、お越しくださいました来賓、保護者の皆様に改めてお礼申し上げます。

各団団長と児童生徒のふり返りの作文です。

●白団団長 中学部3年 L.A

僕にとって、最後の運動会は、素晴らしいものになりました。白団団長として、負けてしまったことはとてもくやしかったです。まず、赤団の皆さん優勝おめでとうございませう。

僕は、この運動会で小さい子たちと仲を深めることができました。大なわに入るタイミングで押してあげたり、アドバイスをしたら小さい子たちも少しずつ話を聞くようになり、僕も小さい子たちに話せるようになりました。ダンスでは、怒られることもありましたが、本番で踊った、個性的なダンスは、見ていただいたみんなの目を引きました。この運動会の練習と本番を通して小さい子から大きい子まで力を合わせてやること、マド日の良さを見せることができました。

このマド日でやってきた全部の運動会、頭の中に浮かんで来ます。



●赤団団長 中学部3年 K.S

今回の運動会では赤団団長になりました。去年は最初は全部負けてしまいましたが、僕はこれを変えるために三つのことをがんばりました。

一つ目はみんなに教えることです。これをするためには、休み時間や団ランチにシンプルなことを教えました。でもこれでは足りませんでした。白団はとても強い相手でしたので団ランチで作戦のアイデアを提案し決めていきました。例えば、玉入れで小学生は玉を集めて中学生が投げるということを作戦にしました。

二つ目はみんなを集めて手伝っていくことです。僕はみんなをグラウンドに集まらせるために毎日何をするか表にしたり、かけ声をかけたりしました。そこでも一人一人の苦手なところを知り、手伝いました。例えば大縄で一年生二年生の合図と跳び方を教えました。

三つ目はダンスです。僕はいつもダンスが苦手でしたが、先生におこられて、家で練習をたくさんしました。本番で上手にできてよかったです。最後に赤団が勝ってよかったです。マド日でみんなをまとめることを学びました。



●小学部2年 Y.H

ぼくは、リレーをいちばんがんばりました。ぼくは、二年生ですがはんしゅうを二かい、あわせて一しゅうなので、きつかったです。つぎにがんばったことは、おうえんがっせんです。おうえんがっせんだったのでよかったです。

赤だんとちよつとのさでかちました。つぎは、ぜんぶのミッションをクリアせよ、ツーでした。七 VS 四でかちましたが、赤だんもつよかったです。ちよつとゆだんしたかとおもいます。

マド日さいしょのうんどうかいだったけどのしかったです

●小学部3年 S.N

ぼくが運動会でがんばった事はリレーとダンスです。リレーでがんばったことは、はやく走ることです。大きな声で〇〇ちゃんにバトンパスすることもがんばりました。走る前は絶対に勝つぞ!!という気持ちでいっぱいでした。走っているときはいい気持ちでした。走った後はぬかされなくて安心な気持ちでした。ダンスでがんばったのは、大きな声を出してそくてんをこけないできつ



ちりとしたことです。ダンスをする前はどきどきな気持ちでした。ダンスをしてるとちゅうは、楽しい気持ちでした。

それでダンスがおわった後はうれしい気持ちでした。リレーで勝ったからうれしかったし、ダンスはいろんな気持ちをもちました。

●小学部6年 M.N

「白馬のように！美しく！」

このかけ声で、競技が始まりました。私は、この運動会で特に心に残ったことを三つ書きます。

一つ目は玉入れです。小学部だけのときは、たくさんとってバスケのときみたいな投げ方をしたらけっこう入りました。結果は一個差で白団が勝ちました。二回戦、中学生もいっしょのときも、まだたくさんとってバスケみたいな投げ方をしました。けど、赤団はもっとたくさん入れて、負けてしまいました。

二つ目は心を合わせてです。練習では、負けたことしかありませんでした。なので、今回も負けるかなと思っていました。スタートしたらけっこう、速く進んでいきました。そしてコーンのときは、まれ名ちゃんがすぐたおしてくれました。その時は赤団と同じくらいだったので、いけると思いました。五人六脚のときは、輪っかをつくるむすび方をしていたので、終わったらすぐにとれたので、この結び方はいいなと思いました。二回目、ムカデ競争のときはみんなでかけ声をかけてスムーズに進めてよかったです。三回目も速く走ってもたおして、結んで、走って、ほどくことができてきました。最後ほどいたとき赤団はほどいてなく、初めて勝てたのでうれしかったです。

三つ目はダンスです。ダンスは今まで一番、家でも学校でも、たくさん練習してきました。本番少しきんちょうして、最初は笑顔を忘れちゃった。でも、ガールフレンドの最後の決めポーズで笑って、「やってみよう！」と言うところはもっと楽しくて元気になってきました。最初ダンスを見たときは「こんなのできない。」と思いました。たくさん練習したらできるようになったので、練習は大切だと思いました。



私はこの運動会は、かっこいい負け方ができたと思います。来年は団長かもしれないので頑張りたいです。

●中学部2年 S.N

私は、運動会を振り返って、今年は団結力を求められたと思います。改めて結成のころから振り返ってみると、団結力がなく、全員自由な感じでした。だからボロ負けもしました。しかし、団ランチ等での作戦会議、休み時間、マド日タイム、部活動での練習を積み重ねてきた分だけ、団結力が深まり、一歩ずつ成長していきました。赤団は団名

を「赤鬼パワー」、スローガンを「みんな協力して一生懸命闘う」と決めました。そして、赤鬼のように力強く闘い、優勝するべく頑張りました。

いよいよ当日、天気にも恵まれ、スペインの太陽の下で運動会が始まりました。玉入れと綱引きは特に心配でした。自分の心に「あれだけ練習したのだから大丈夫」と唱え、集中しました。どちらも接戦。笛が鳴るまで全員が一秒たりとも気を抜かず闘いました。そして、今年から新競技である応援合戦です。赤団は、団員の入替わりが激しかった分、練習時間は短かったですが全力でやりました。

最後はやはり、勝敗を左右する大縄とびとリレーです。どちらの団も一番練習を積み重ねた競技です。最後までどうなるかはわかりませんでしたが、見事赤団が勝利しました。正直、負けると思っていたので負けるとしても全力で闘って、全力で気持ちよく、かっこよく負けようと思っていました。なので、勝って少しおどろきました。この運動場で行う最後の運動会を勝利でかざれてよかったです。

来年はおそらく団長です。中三として、低学年を引っ張り、白熱したバトルを繰り広げたいです。

●中学部3年 Y.D

僕は、マド日で二回目の運動会で最後の運動会でもありました。本番では負けましたが、運動会の練習のおかげで、小学部と仲を深めることができました。

最初は大縄でほとんどの人が縄に引っかかり、記録が伸びず、リレーもバトンが上手くいきませんが、団長や副団長、実行委員を中心に声をかけ合い、小学部も指示をちゃんと聞くことができたので良かったと思います。そして、中休みや昼休みの練習でも、最初の方は団長が声をかけないと小学生たちは集まることができなかったのが、運動会の二週間ぐらい前くらいからは団長が声をかけなくても自然と運動場に集まり、早く練習を始めることができたのでよかったです。

マド日の運動会は人数が少なく小学生と運動会をする事は日本ではめずらしいので良い体験ができて良かったです。これからの小学部とやる行事でも運動会で得た良い点を生かしたいです。



マド日の学び

●3年生理科『酸、アルカリとイオン』

3年生の理科の授業で「イオン」について学習していました。この授業では、「酸性とアルカリ性の水溶液を混ぜ合わせた時の中和が起こる過程を、イオンのモデルを使って説明すること」が目標でした。BTB溶液を使って色の変化は「眼」で確かめることができますが、なぜそうなるのかはモデルを使い、可視化して説明するほかありません。用意されたモデルを使い、自分の考えを友達に一生懸命伝えていました。



●図工の作品

小学部1、2年生「扉を開けると」

画用紙を扉のように折り、扉に描いた風景と開けたときの風景の違いを意識して絵を描きました。遠くから眺めた海の景色が扉の部分に、扉をあけると、眺めていた海の海中の生き物が生き生きと描かれています。



小学部3、4年生「葉っぱにいる昆虫」

葉っぱの上にいる昆虫を描きました。昆虫が生き生きとしています。しかし、この絵のポイントは水彩絵の具で塗った葉っぱのグラデーションだそうです。



●社会科レポート

小学部6年「狩り中心の生活から大和朝廷へ」

縄文時代、弥生時代の人々の生活の様子や、古墳時代に作られた各種古墳の特徴、また大和朝廷と卑弥呼の関係が上手にまとめられています。



学校公開週間！

6月の学校公開週間のお知らせです。

・日時 令和元年6月26日(水)～28日(金)

ご案内は、校内での配布物、または、メールでの配信でお知らせしております。マド日の普段の姿をご覧ください。たくさんの御来校お待ちしております。この時期には短期入学生や夏季体験入学生も加わり40名ほどの児童生徒で活動しております。



派遣教員のつぶやき

「家電と私」 中村 大介

1年目は「ガンダム」で多角的にものごとを見つめること、2年目は「欒坂46」で摩擦を恐れずに自分の信じる道を進むことを書きました。3年目のテーマは何にしよう…ということで、好きな「家電」について書きます。

最近家電が非常に便利になってきました。AIが発達し、今では冷蔵庫がスマホアプリと連動して冷蔵庫の中の食材を教えてくれたり、その食材を使った料理の献立を冷蔵庫が提案したりするそうです。左右どちらからも開くなんてもう古い、自動で扉が開くなんて当たり前、そんな時代が令和の時代です。

世の中が便利になる一方で、私ならラクをすることだけを考えて生きてしまいそうですが、本当にそれでいいのかなと思うこともあるのです。きっと冷蔵庫の開発者は何かに困り、不便を感じたので、生活をより良くするために、そんな技術を開発したのでしょう。「少しの不便さや困り感が人を成長させる」そう思っています。越えるべき困難が目の前にあったから、人はそれを越えようとした。

ちょっとした不便や困り感が人の成長を促すのは、学校での学習や行事でも同じこと。じっくり考え、しっかり悩み、できなくて不甲斐なさを感じたり、叱られたりすることがあったとしても、自身の力でたどり着いた答えや結果に無意味なものはないと信じています。さて、宿泊体験学習に期末テスト…それぞれに、様々な負荷がかかります。さて、マド日の皆さんは、どうやって乗り越えてくれるのでしょうか。意地悪だと思われたとしても、私は「答えだけ」を教えるつもりはありませんよ。多少の負荷は、あなたの成長のために。

